



パラオ通信

No. 23/3/19/2020

JICA 海外協力隊 SV 天野久雄

今回はアウェアネスウィークの報告をします。3月17日（火）から20日（金）までの4日間は、学校教育の啓発と深化を図る学校行事の1週間です。「青年の日」という祝日のあとの火曜日から、公立のすべての小学校と高等学校で行われました。内容は数学と理科を中心とした学習発表会（サイエンスフェア）、地域や文化の学習会、運動会などです。日本の学校で行われる学習発表会や文化祭、運動会を4日間に凝縮して行うというイメージです。

昨年は「パラオ通信 6」で紹介しましたのでそれも参照してください。私は2回目の見学なので少し要領がわかり、いろいろな学校を駆け回りました。その中で特に印象に残った行事をいくつか紹介します。

サイエンスフェアと文化発表会

これは個人またはグループでサイエンスのテーマを選んで研究発表をするものです。小学校の低学年の場合は保護者も手伝い、かなり立派なものになっています。サイエンスとは、環境や生命、物理、数学、社会問題など幅広い分野をさします。先生たちが発表内容やプレゼンの仕方などを審査して表彰もします。私の同僚で4年生の母親であるヴァネッサは、2週間かけて夜中まで子どもと一緒に作品を作ったと言っていました。プレゼンのリハーサルも何回かしていました。パラオの母親も子どもの教育に熱心です。

研究発表だけでなく、数学や理科に関する体験活動もありました。左の写真はミューズ小学校での数学ゲームです。2人1組になって合図とともに自分のカードを額に貼り付けます。はじめにカードは裏向きにして持っているので、自分のカードの数はわかりません。別の人から「足して12」「かけて18」「〇〇さんの方が4大きい」などのヒントを与えます。それを聞いて先に自分のカードを当てた人が勝ちです。このゲームはとても人気がありました。そのほかには数学パズルや理科の観察学習がありました。



右の写真は伝統文化の発表会です。先生の手づくり衣装で子どもたちはパラオのダンスを踊っていました。高学年では衣装も本格的でダイナミックな踊りを披露してくれました。衣装にはココナツの葉を編んだものや殻を加工したものを使っていました。



こちらの写真は GB ハリス小学校の運動会です。日本の運動会と同じような種目、リレーや綱引き、障害物競走などがありました。子どもたちは真剣に取り組み、競技が始まると団席から声援があがりました。でも日本の運動会ほどには勝敗にこだわっていません。みんなで楽しんでいるという印象を受けました。先生たちもリラックスしていました。

この種目の直前に雨が降りはじめました。私が心配して空を見ていると、「ダイジョウブ、シンパイナイ」と近くの保護者が両手の親指を立てました。確かに雨はすぐに上がってゲームが再開されました。パラオの3月はまだ乾季なので、雨がすぐ止むのです。それに運動場は芝生が張ってあるので、ぬかるむこともなく直ぐに再開できるのです。子どもたちも雨が降ってTシャツが濡れてもすぐ乾くので気にしません。これも日本の学校とは違います。

ウォーカソンというものもありました。早朝5時ごろに集合して約1時間半、ひたすら歩くというイベントです。終了したら子どもたちはいったん家に帰り、再び8時に学校へ集まります。日中はとても暑いのでマラソン大会はありません。水泳大会もありません。

地域や文化を学ぶベラウフェア

どの学校も、パラオ各地の文化や伝統を学習します。コロール小学校ではパラオにある16州の特徴を学習していました。グループに分かれてそれぞれの州を調べます。それを発表した後に、保護者やその州の出身の人たちが食べ物を紹介します。実際には大型テントの中での試食会となります。子どもたちは話を聞いてメモをとりますが、多くの子は食べることに夢中になってしまいます。パラオ16州だけでなく、隣の国フィリピンの料理も紹介されていました。

私がいちばん興味を持ったのは、パラオの南の方にあるソンソール島の紹介です。パラオは海がきれいで自然が豊かですが、ソンソール島の海はいちばんきれいだといえます。パラオで上級者のダイビングスポットで、ウミガメがいっぱいいるそうです。



会場はこのように各州のコーナーに分かれています。食品は紙皿や木の葉に載せて取り分けます。右はパラオの伝統料理のひとつウカエブです。カニの身をココナッツミルクで煮込んで甲羅に詰めた料理です。とても食べやすく子どもたちに人気があります。カヤンゲル島やペリリュー島では、引き潮の時にはこのカニが道いっばいに広がって、うじゃうじゃ歩いています。そのほかにもマングローブカニやシャコガイもパラオの特産品です。



左はココナッツミルクで炊いたご飯です。ほんのりとした香りが食欲を刺激します。お米をヤシの葉で包んでココナッツミルクで茹でて作ります。右は「カリントウ」というお菓子です。「日本でもカリントウあるでしょ。パラオはこれです」と試食を勧められました。それほど甘くなく、薄皮を巻いて油で揚げたお菓子でした。



左はバナナ料理を紹介したコーナーです。色や形、味が少しずつ違っていました。身の中央に小さな種が詰まっているものもありました。

バナナを油で揚げた料理もありました。私の職場の上司は「それにピーナツバターを付けると美味しいよ」と私に勧めていました。カロリー高そうで止めました。



これはタピオカの料理です。蒸して作った練り物、燻製、お菓子やケーキなどいっぱいありました。タピオカ料理のレパートリーの豊富さに驚きました。ほんのりとした甘みで食べやすいものばかりでした。ちなみに日本でブームになっている「タピオカ・ドリンク」はありませんでした。保護者の人に聞いたけれど「知らない」という返事だけでした。

日本の文化の紹介もありました

アウェアネスウィークには、日本大使館からの出張授業もありました。GB ハリス小学校ではパラオ語になった日本語や折り紙、風呂敷の紹介がありました。第2次世界大戦前には多くの日本人がパラオに住んでいたため、「ナガソデ」「ベンジョ」「ツカレナオース」など古い日本語が今も使われています。ちなみに「ツカレナオース」はビールのことです。子どもたちは折り鶴に挑戦しました。風呂敷は知らない子もいて、その便利さに驚いていました。



続く →